

# 彩の歳時記

平成二十七年 十月

「もくせい」 金子みすゞ  
もくせいのにおいが  
庭いっぱい  
表の風が、  
御門のところで、  
はいろか、やめよか  
相談してた。

秋の長雨が終わり、秋晴れの下、運動会、紅葉狩など絶好の行楽シーズン十月。収穫を祝う秋祭が始まる季節。もみじに先駆けて「**金木犀**」が甘く強い香りを漂わせます。現在では安眠のアロマや香水などで親しまれる「**キンモクセイ**」も、一定の年齢以上の人には、「芳香剤」としての認識が強いようです。江戸時代に中国から渡来、庭木として普及、現在も玄関脇などに植栽され香りを楽しませてくれます。中国名は「**桂花**」、**桂花茶**は胃炎・皮膚炎の鎮痛効果もあると言われ、香りと共に秋を味わいたいものです。



## 十月の暦

神無月 かんなづき

出雲大社に全国の神様が集まるため、出雲以外には神様が居なくなる月。

出雲では神在月。他に開冬・初霜月・時雨月

一日 都民の日 東京の小中学校は休校。多くイベントが催され、施設や庭園が無料開放に。

向島百花園・殿ヶ谷庭園・上野動物園 夢の島熱帯植物館・江戸東京たてもの園・浜離宮・六義園・清澄庭園・神代植物園  
葛西臨海水族園・東京港野鳥公園・江戸東京博物館・庭園美術館・東京都美術館・現代美術館・旧芝離宮庭園  
旧岩崎邸庭園・旧古河庭園・多摩動物公園・井の頭自然文化園・小石川後楽園

以上が無料開放

衣替 ころもがえ

宮中行事が始まり。現在、学校や官公庁、銀行で実施。和服では、今も重視され

正式には六月から九月までは単(ひとえ)、十月から五月までは袷(あわせ)



八日 寒露 かんろ 【二十四節気】露が冷たい空気と接し、霜に変わる直前で、紅葉が濃くなる。

十日 東京オリンピック開会の日 1964(昭和39)年、アジアで最初のオリンピックが東京で開催、これを記念して、1966～1999年の間は「**体育の日**」で祝日だったが現在は**第二月曜日**。

十二日 体育の日

芭蕉忌 せうこう

俳聖・松尾芭蕉【1644～1694】の忌日。三重県上野の人。時雨月に因み「**時雨忌**」

秋深しとなりは何をする人ぞ 物言えば唇寒し秋の風

句碑などには、かな書き署名は「はせを」と記されることが多い

神嘗祭 かんなめさい 天皇が、その年の新穀を伊勢神宮に奉納する祭。



二十四日 霜降 そうこう 【二十四節気】 朝晩の冷え込みが厳しくなり、日が短くなったことを実感する。

二十五日 十三夜の月・栗名月 後の月とも言い、月見の風習がある。後の月見という日本独特の行事。

二十七日 文字・活字文化の日。2006年に制定された文字・活字文化振興法に盛り込まれた記念日。

読書週間【10/27～11/9】の初日で言語力を高める日。神田古本祭など。

三十一日 ハロウィン キリスト教の祝日「**万聖節**」の前夜祭。もとは秋の

収穫祭で悪霊などを追い出す宗教的行事。日本ではキティランド

原宿店が1970年代にハロウィン関連商品の販売開始、1997年に

ディズニールランドが、イベントを開催するなど人気行事に。



## 十月の歌

伴せはここに 昭和四十二年 大橋節夫 【1925～2006】 詞・曲・歌唱

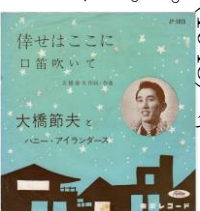
大橋は日本のハワイアン音楽草分けのひとり、幼児期よりハワイアンに親しみ、やがてスチールギターを弾き始め、慶應大学法学部卒業後の昭和23(1948)年、

「大橋節夫とハニーアイランダーズ」を結成、ハワイアン一筋に歩む。

昭和四十年代には結婚式の定番曲。石原裕次郎や五木ひろしがカバー。

優しい言葉でサラリと心の機微を歌ったこの歌は、何でも無い日常

に実は幸せが隠れており、平穏でいられることの幸せを歌っている。



秋の夜は更けて  
すだく虫の音に  
疲れた心いやす  
吾が家の窓辺  
静かにほのぼのと  
伴せはここに  
星のまばたきは  
心の安らぎ  
明日の夢をはこぶ  
やさし君が笑み  
静かな吾が窓辺  
伴せはここに